

No.765 2010年12月6日

ARIBからのお知らせ

「電波産業年鑑 2010」を発行

11月30日に「電波産業年鑑 2010」を発行しました。「電波産業年鑑」は、電波産業の実態を的確に把握できるよう情報を提供することにより電波の理解と利用促進を図るとともに、通信・放送事業における事業計画の立案等に役立てていただくことを目的に、当会の「調査統計小委員会」で編集を進めてきたものです。

本年鑑は、電波産業に関する情報・データを網羅した5つの章及び資料編からなる本誌と、電波産業調査統計（統計で見る電波産業の推移）の別冊により構成されています。

また、本誌・別冊の2年分及びその他の参考資料をCDROMに収録し、付録としました。

会員の皆様には、11月30日に発送いたしました。追加が必要な方には、実費(2,500円)で頒布していますので、事務局 (arib-nenkan@arib.or.jp) までお問合せください。

【本誌目次構成】

第1章 2009年度の動き

- (1)2009年度の概要 (2)2009年度のトピックス

第2章 電波産業の動向

- (1)2009年度の概要 (2)電気通信事業 (3)放送事業
(4)無線機器製造事業

第3章 電波産業の技術動向

- (1)2009年度の概要 (2)移動通信分野 (3)放送分野
(4)衛星通信分野 (5)小電力無線分野
(6)電波環境に関する技術 (7)将来技術分野

第4章 情報通信行政の動向

- (1)2009年度の概要 (2)我が国の情報通信行政の動向
(3)海外の情報通信政策の動向 (4)国際政策の推進

第5章 標準化団体・会議の動向

- (1)2009年度の概要 (2)国際電気通信連合(ITU)
(3)世界電気通信標準化協調会議(GSC) (4)アジア・太平洋電気通信共同体(APT)
(5)日中韓情報通信標準化会議(CJK) (6)3GPP/3GPP2 (7)IEEE 802 委員会
(8)XGP フォーラム (9)国際標準化機構／国際電気標準会議(ISO/IEC)
(10)海外標準化団体との連携



資料編

(1)社団法人電波産業会(ARIB) (2)便覧

CD-ROM

(1)本誌(本編) (2)本誌(資料編) (3)別冊 (4)電波産業年鑑 2009(本誌・別紙)
(5)2007年以前の技術動向 (6)ARIB 機関誌 (7)ARIB NEWS (8)ARIB 事業案内
(9)ARIB 活動紹介パネル (10)総務省関連ライブラリ

【別冊目次構成】電波産業調査統計～統計で見る電波産業の推移～

(1)国内産業規模の推移 (2)海外産業規模の推移 (3)付録 データ

電気通信・放送行政の動き

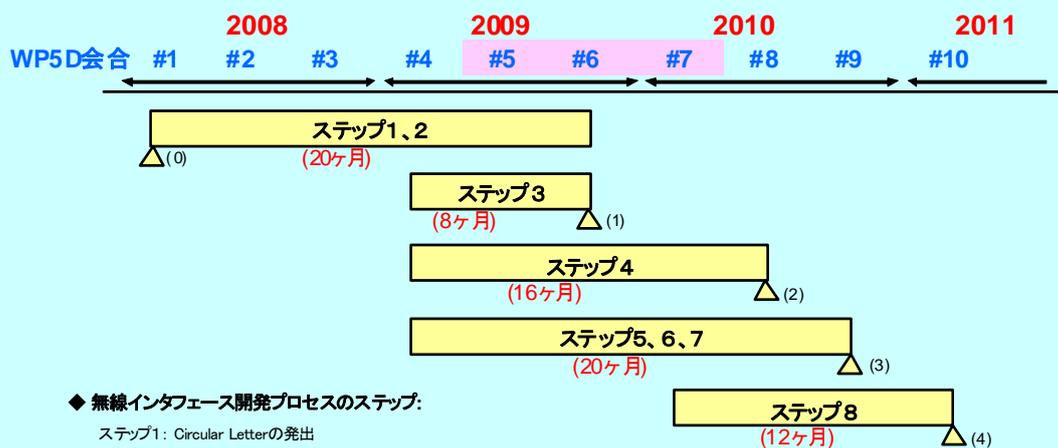
IMT-Advanced 無線インターフェースに関する標準化 ～ITU-R WP5D 第9回会合の主要結果～

IMT-Advanced 無線インターフェースに関する標準化の進捗状況について、ITU-R WP5D 第9回会合の主要結果をお知らせします。

- 1 日程 : 2010年10月13日(水)～10月20日(水)
- 2 場所 : 中国・重慶市
- 3 出席者 : 23ヶ国、約200名が参加
(日本は、総務省・越後企画官を団長に22名(ARIBからは3名)が参加)
- 4 IMT-Advanced 無線インターフェース関連の主要結果(なお、IMT-Advanced 無線インターフェースの開発スケジュールについては次ページの図を合わせて参照ください)
 - (1) IMT-Advanced 無線インターフェースの選定プロセスについては、6つの技術提案全てが要求条件を満たしているとの合意に達し、ステップ6の作業(ITUでの最小要求条件との合致の評価の取り纏め)を完了しました。
 - (2) 6つの技術提案を2グループ(3GPP Technology と IEEE Technology)に収斂させ、2つの無線インターフェースを詳細仕様勧告[IMT.RSPEC] (下記(6)項参照)に盛り込むことについて合意し、ステップ7の作業(ITUでの評価結果の考察、合意形成、無線インターフェースの決定)を完了しました。
 - (3) 今回の結論は各技術提案者及びグローバルコア仕様(GCS: Global Core Specification)の作成者にはリエゾン文書で、ITUメンバにはCircular Letter(5/LCCE/2)のAddendum 4で連絡することとしました。
 - (4) IMT-Advanced 無線インターフェースの選定経過を記述する新レポート案[IMT.RADIO]の作成に関しては、開発スケジュールのステップ6及び7の結論を受けて文書の最終化を行い、新レポート案(Draft New Report)を完成しました。本文書策定過程で、2つの無線インターフェースの名称を3GPP側は“LTE-Advanced”、IEEE側は“WirelessMAN-Advanced”とすることに合意しました。本新レポート案は本年11月開催のSG5に承認を求めて上程されることになりました。
 - (5) IMT-Advanced 無線インターフェースの詳細仕様に関する新勧告案[IMT.RSPEC]の作成に関しては、日本、IEEE、カナダからの提案を基に作業文書を更新しました。本作業文書は2011年4月に開催される第10回会合において、上記GCSを基にして各地域の標準

化団体等が今後策定する標準仕様の参照情報を除いて最終化する予定です。また、本勧告の更新手順についても検討を継続し、次回会合にて最終化させる予定です。

IMT-Advanced無線インタフェースの開発スケジュール



◆無線インタフェース開発プロセスのステップ:

- | | |
|--------------------------------|---|
| ステップ1: Circular Letterの発出 | |
| ステップ2: 候補RITsの開発 | |
| ステップ3: RITの提案の受け付け | |
| ステップ4: 評価グループによる候補RITsの評価 | (1) 候補RIT提案の締切 (2009年10月) |
| ステップ5: 外部評価活動のレビューと調整 | (2) ITUへの評価レポート提出の締切 (2010年6月) |
| ステップ6: 最小要求条件に合致していることの評価とレビュー | (3) WP5DでのIMT-AdvancedのRITsのキーとなる特性の決定 (2010年10月) |
| ステップ7: 評価結果の検討、コンセンサス形成並びに決定 | (4) WP5Dでの無線インタフェース仕様勧告案の完成 (2011年4月) |
| ステップ8: 無線インタフェース勧告の作成 | |

RIT: Radio Interface Technology (無線インタフェース技術)

Mar. 25, 2002 電子情報通信学会シンポジウム

総務省からのお知らせ

地上デジタルテレビ放送に関する浸透度調査の結果

【平成22年11月26日の総務省報道資料から】

本調査は、地上デジタルテレビ放送対応受信機の普及状況等を定量的に把握し、今後の普及促進の取組に反映させるなど、地上デジタルテレビ放送の円滑な普及に資することを目的に実施したものです。調査結果については、別紙を御参照ください。

今回の調査結果では、地上デジタルテレビ放送対応受信機の世帯普及率は90.3%となっており、9割を超えました。

【調査概要】

- | | |
|-----------|---------------------------|
| ○ 調査実施時期 | 平成22年9月 |
| ○ 調査対象地域 | 全国47都道府県の全域 |
| ○ 調査対象者 | 男女15歳以上80歳未満の個人 |
| ○ 調査方法 | RDD法によりサンプルを抽出した後、郵送調査を実施 |
| ○ 有効サンプル数 | 13,170 |
| ○ 調査実施団体 | 社団法人デジタル放送推進協会 |
| ○ 調査請負先 | 株式会社サーベイリサーチセンター |

IMT Partnership 部会 3GPP-SA 対応WG 主査 佐藤 一美

(三菱電機株式会社 通信システム事業本部 通信システムエンジニア
リングセンター 戦略事業推進グループ 担当部長)



ARIB 会員の皆様にはお世話になります。私は携帯電話の標準化に携わっています。

ご承知のように、グローバルな携帯電話システムの標準仕様の開発には、公的な ITU-R の WP5D と民間の標準化母体 3GPP、3GPP2 及び IEEE が連携して活動しています。そこで承認された標準仕様は、最終的には ARIB 規格会議の承認を得て ARIB 標準規格として発行されることとなります。

さて、今やまさに次世代方式誕生への黎明期にあります。1999 年に IMT-2000 方式が勧告化されてから約 10 年が経ち、次世代に向けた新たな標準方式 (IMT-Advanced 方式) の開発が最終段階を迎えています。先般 10 月の WP5D 重慶会合の結果では、3GPP 技術の LTE-Advanced と IEEE 技術の WirelessMAN-Advanced の 2 方式が募集要件を満足すると認定されました。今後、詳細な技術提案を受けて、最終的には 2011 年 10 月に無線インタフェース技術の新勧告草案 ITU-R M.[IMT-RSPEC]が ARIB 等の標準化機関で承認された標準規格を参照して完成します。2012 年 1 月の無線通信総会(RA)での採択を得て晴れて発効する予定です。

これにより、約 1Gb/s の高速伝送を実現する新時代が幕開けし、折しも登場したスマートフォンに見られるようなマシン対マシン通信のトラフィック急増にも本格的に対応できるシステムと期待されます。

私事で恐縮ですが、私は入社以来、移動体通信機器の開発設計に従事してきました。1980 年頃の MCA での業界仕様の開発、1990 年頃の PDC では RCR 標準規格開発を経験し、また、1993 年に RCR で開発が始まった WCDMA 方式では更に広がり、欧州とも連携し 3GPP 仕様となって 1999 年には IMT-2000 方式として ITU-R で採用されたのを体験しました。約 10 年ごとに筋目があった感じがします。一方、デファクト標準からデジュール標準化への進展に伴って開発費や参加費用も膨らみましたが、標準化は新事業を起すことと自らを励ましてきました。役に立てたかは疑問ですが、多くの優れた人々と交わって得るところが大きく、何ものにも代え難いと感慨を深くしています。

微力で恐縮です。 今後とも宜しくお願いします。

(編集担当 山田)

ARIB**Association of Radio Industries and Businesses**

ARIB NEWS
発行所

社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp